

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700543		
法人名	社会福祉法人 豊の里		
事業所名	グループホーム2ユニットさつき	ユニット名	さつき
所在地	宮崎県北諸県郡三股町大字樺山4845-8番地		
自己評価作成日	平成24年7月10日	評価結果市町村受理日	平成24年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4571700543&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成24年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 家庭的な雰囲気の中で、その人らしい生活の実現の為に、五感(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)の触れる機会を持てるようケアを行っている。
2. 1年を通して、外出支援等の機会を持つことで、季節感を感じていただいたり、家族参加の行事で、家族との絆を深めてもらえるように努めている。
3. 可能な限り、家事等を一緒に行うことで、身体機能維持を図り、さつきでの安心した生活を送っていただけるようケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者本位に取り組み、個別に自立支援を目指している。そのために、利用者がどうしたら能力を維持できるか、自立できるかを分析し、工夫に工夫を重ねている。食事の介助を受けていた利用者が、自分で食べ始めているのを見て、職員は拍手して喜び、写真に撮り、家族とも喜びを分かち合っている。ホーム独自に作成した利用者全員の記録を全職員が持ち、情報を共有している。この独自の書類やセンター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)の書類を始め、記録類は多いが、それを作成する労をいとわず利用者個人個人のケアに活用している。カラー刷りになった「さつき通信」は、家族用と地域に配るのとは異なり、家族用は、地図を載せている部分に利用者の状況を書くように工夫がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	さつき	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	●グループ理念を基に、事業所の理念を作成している。また、ご利用者様が地域の中で、生き生きと生活できるように、申し送りや会議の中で話し合いを持ち、その一人ひとりに合った柔軟なケアを実践している。	家族や地域と協力して、介護を行うという理念を含めている。理念の文言は分かりやすいので、職員も理解してケアに生かしている。センター方式（認知症の人のためのケアマネジメント方式）を一部採用し、理念に沿ったケアが実践されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	●運営推進会議に、地域代表の参加をいただいている。また、地域の行事等への参加や施設内行事等への参加も依頼し、交流を図れるように努力している。	ホームは、地区の公民館の一員で、草刈り清掃に職員が参加したり、夏祭りに利用者とかけるなど、緊密な関係が築かれている。回覧板には、カラー刷りのパンフレットを各家庭が受け取れるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	●家族会や近所の方々に、認知症についての勉強会参加や施設見学などをなげかけているが、十分実践されてはいない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	●運営推進会議にて、取組についての報告や意見交換を通じ、サービス向上につなげている。	協力的なメンバーとの意義深い会議となっている。町の広報にグループホームとは何かを紹介する文章を含めることや回覧板にパンフレットを入れることも、この会議での成果である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	●役場訪問時や運営推進会議参加時等に、事業所の運営や現場の状況等を随時相談している。	介護保険に関することで、担当課に出向いたり、聞きたいことがある時など、電話で相談している。ホームの行事に、担当課からの来訪もある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	●本人の意志を妨げる行為は、身体拘束である事を全員で理解し、どのようなケアを行っていけばよいか随時話し合いを行うとともに、玄関のセンサーや夜間の離床センサーなどを活用し、本人の行動を妨げない工夫を行っている。	月に1回開かれている勉強会で、スピーチ・ロックについて取り上げたり、年1回は身体拘束についての研修が行われている。玄関は施錠されていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	●スタッフ会議・ケア会議開催時に、人権尊重について話し合い、予防に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	さつき	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	●権利擁護について、冊子や朝礼などを活用して、理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	●重要事項説明書や契約書について、細かい説明を行い、また、疑問や質問についてはその都度説明、理解を求めて、納得の上、署名捺印を頂く事としている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	●家族へのアンケート実施や施設内苦情についてのポスター掲示、また、退所があった場合にも、ケアについての意見収集を行っている。		家族が職員に述べた意見や要望と、それに対応した内容はノートに残し、家族にも伝えている。利用者が好んでしていたことを家族が職員に話すと、それを早速、職員は利用者で行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	●月1回のスタッフ会議等で、勤務体制・その他について意見提示を求め、改善に努めている。		スタッフ会議や日々の活動の中で、意見がよく出されている。管理者は、職員と話し合うとき、視点を変えて見ることや色々な方法を工夫するなどして、意見を生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	●年2回の個別面談を行い、勤務状況についての要望等を聴き、研修参加や資格取得へのなげかけを行っている。随時、職員とコミュニケーションを図る事で、職員の状況把握に努め、勤務の継続を図っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	●法人内での研修参加をなげかけたり、外部研修参加により、資質向上を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	●同グループ内のGH同士、認知症システムの会議を定期的に行ったり、都城市・三股地区GH連絡協議会への会議参加を行う事で、情報収集を図った。			

自己	外部	項目	自己評価	さつき	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	●サービス導入時、家族からの話だけでなく、本人との面会を行い、本人の意向や気持ちなどを重視して、関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	●まず相談時、現在の相談者の状況や気持ちの受容を行い、安心してもらえるように努めている。その後、施設についての見学を勧めたり、介護についてのアドバイス・専門機関の紹介等を行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	●相談時の本人・家族の状況の把握にまず努め、現状の解決策を色々な面から考え、情報提供等を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	●入所者は、人生経験豊富な方々であり、ただケアを提供するだけでなく、一緒に時間を共有し、お互い協力し合いながら、楽しい生活を維持していけるように努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	●本人の状況を月1回、お便りで報告したり、遠方の方には、電話や携帯画像で送信して家族に伝え、面会を勧めたり、年間行事への参加をなげかけ、家族にも介護についての意識を持っていただくように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	●家族に近況の様子を伝えながら、自宅帰省や帰省時の墓参り等を勧めている。また、キーパーソン以外の面会などが見られた時は、関係が継続していけるような雰囲気づくりやなげかけを行っている。	夏祭りに参加した時に、知人と再会したり、神社への初詣でや七五三の時に çıkけて、着物を着た子供たちを見てもらうなどの工夫をしている。ホームは、現状では満足しておらず、この分野での支援に力を入れたいと考えている。		利用者本位のケアの工夫を繰り返す姿勢を持っているので、この分野でも更なる展開を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	●利用者同士の性格や状態を把握した上で、(人的・住居的環境)席のセッティングなどを行い、トラブル予防に努めている。また、利用者が孤立しないように話しかけを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	さつき	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	●家族への電話や入院先への訪問・対処後のサービスへの助言や情報提供を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	●プラン変更時、本人の思いや暮らしへの要望を聴き取り、把握に努めている。また、聴きとり時、本人の口調や表情等に気配りを行い、真意の引き出しに努めている。		センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)から5パターンの記録法を選び、利用者を理解する努力を続けている。加えて、ホーム独自の「観察対応結果表」で、利用者の言動の記録と対応を残している。これらの記録類も生かして、思いや願いをくみ取るために活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	●入所前の事前調査・入所後のアセスメントにて、情報収集を行っている。また、入所後も随時、本人・家族より聞き取りを継続している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	●介護記録の徹底や観察簿記入による食事・排泄などの細かい記入、また、口頭や申し送り帳による伝達など、情報の共有を行い、心身状態の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	●面会時の家族への聴き取り・スタッフ会議や申し送りなどでの情報交換を行い、計画作成に活かしている。		24時間記録用紙を活用して、ケアプランに生かしている。1か月ごと、3か月ごとの見直しを行っている。利用者に変化が生じたときは、随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	●24時間の記録形式を使用。時間を追っての状態変化や特記の把握を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	●地域の行事参加や主治医以外の受診、ボランティアの活用など、本人・家族の要望などを把握しながら、生活を支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	さつき	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	●所在地域のお祭り参加や公民館行事参加、施設内行事への参加をしたりしている。また、散歩時に、地域の人と関わる機会を持ち、交流を図れるように努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	●利用者特変時には、かかりつけ医が24時間対応、また、専門医等への連携を図っている。	同法人のクリニックの往診には、1週間分の状況をボードに記録しているので、それを見てもらい、急変時には、ファックスで情報を送り、指示を受け対応している。他科の掛かりつけ医受診には、職員が同伴して、状況を説明している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	●看護職員を配置し、健康管理や医療と連携を行うなど、医療面での充実を図っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	●状態変化により、入院が発生した場合、必ず職員が付き添い、状況把握に努めている。また、随時、家族との連絡を行い、入院によって家族が不安にならないように努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	●当施設では、ターミナルケアを行っていない為、施設申し込み時、重度化や終末期について、施設の方針の説明・理解を求めている。状態悪化時は、主治医との連携を図りながら、本人・家族と話し合いを持ち、今後の方向性を検討、結果をスタッフ全員で共有している。	契約時から、ホームではできないこと、終末期は望めば同法人の施設への移動が可能であることを伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	●施設内勉強会で、救急時の対応等を検討実施している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	●防火避難訓練実施や非常食の準備など、災害時を想定して準備している。地域の協力体制もある。	地域との協力体制はできている。年1回の訓練には、近隣の方々が避難誘導に加わっている。夜間を想定しての訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	さつき	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	●毎日の業務の中で、排泄や入浴時など、プライバシー等への配慮をしている。しかし、複雑な業務の中では、不十分な面が時折見られる為、その都度、指導に努めている。	防水シートは、バスタオルを上を置いたり、シートの下に敷くなど、家族の印象や当人の気持ちに配慮している。失禁の場合は、さりげなく誘導し、対応している。利用者の気持ちの変化時には、すぐに傍に職員が寄り添い、優しい言葉かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	●必要なら、いくつかの選択肢を提示して、選んでもらいやすいような状況を提供したり、相手に合わせた説明方法を行い、本人が決められるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	●日課について、本人の希望を聴き取り、拒否が強い時は中止するなど、臨機応変に対応している。家族や主治医の意見も含めて、身体機能低下を防ぐ為の日課などへの参加は、出来るだけしていただくように行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	●本人が着る服を決めたり、いくつか提示して決めてもらったりしている。また、外出時や行事等、本人が希望時には、化粧もしてもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	●食事内容については、法人関連事業（セントラルキッチン）に依頼し、施設での盛り付けや簡単な調理などは行っている。また、おやつ作りや近所からの頂き物での調理は、随時行っている。食材盛り付けや茶碗ふきなどは、可能な限り参加していただいている	職員が、共に同じ食事をテーブルで食べ、利用者に語りかけながら食事をしている。食事をこぼして口に運べない利用者のために、家族の了解をもらい、スプーンに10センチほどのホースを付け、プラスチックの食器を变形させて、こぼさずに食事を口元まで自分で持っていけるように工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	●管理栄養士が考えたメニューにての実施。観察簿に摂取量等の記入をしている。また、スタッフも同じ物を食べ、食事の時間を共用している。年に2回ほど、本人に沿った外食支援を行っている。また、お茶会や家族参加の食事会などの行事を行い、食べる楽しみを持ってもらい、本人の摂取状況に沿った食事形態を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	●毎食後、口腔ケアを行ってもらっている。週2回は、薬剤による洗浄を実施している。定期的な歯科検診実施、必要時は、受診を行っている			

自己	外部	項目	自己評価	さつき	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	●日中は、全員トイレ使用を実施している。本人の状況にあった誘導の工夫や排泄用品の活用を行い、可能な限り、自立に近づける排泄ケアの実施に努めている。	●日中は、全員トイレ使用を実施している。本人の状況にあった誘導の工夫や排泄用品の活用を行い、可能な限り、自立に近づける排泄ケアの実施に努めている。	排せつチェック表を見て、個々の状況に応じて排せつが行えるように支援している。ホームの自立支援の効果もあって、布パンツへの変更が行えるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	●観察簿により排便チェックを行い、散歩やレク参加を促す事での腸の運動促進や排便間隔の把握による、便通を促す食品の摂取、牛乳の飲用・排泄時の腹部マッサージなど、毎日の観察簿を基に、排便コントロールを行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	●基本的には週6日(6日/1人)、季節や気候に配慮して入浴を行っている。入浴順番は、個々の意向や身体状況を考慮して決め、入浴時のプライバシー確保に心がけている。	●基本的には週6日(6日/1人)、季節や気候に配慮して入浴を行っている。入浴順番は、個々の意向や身体状況を考慮して決め、入浴時のプライバシー確保に心がけている。	清潔保持のためと、家庭では毎日入浴しているという理由で、日曜日を除いて毎日全員が入浴できるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	●気候に沿った寝具や衣服の調節・入眠時間等を設定している。また、夜間訪室時、本人が安心できるような声かけを行い、入眠時の環境にも配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	●ケース会議実施時に、利用者の疾患や薬の処方状況について検討したり、薬の変更時は、連絡帳や口頭での申し送りなどを行い、スタッフ全員での情報共有に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	●本人の生活歴、得意な事等を把握し、発揮できるよう工夫している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	●本人の外出希望については、家族に相談を行い、協力を求め、可能な限り実施している。地域住民の方からの協力の申し出はあるが、実際の外出支援に密に繋がっていない。	●本人の外出希望については、家族に相談を行い、協力を求め、可能な限り実施している。地域住民の方からの協力の申し出はあるが、実際の外出支援に密に繋がっていない。	毎日散歩の時間があり、近所の人との触れ合いもある。「何か手伝うことがあったら声をかけてよ」との言葉を、近所の人からもらうこともある。遠出も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	さつき	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	●年2回程度の買い物ツアー実施時は、家族に了解の下、衣服等の買い物を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	●施設からのお便りに添えて、一人は手紙を出してもらおうようになげかけ、支援している。電話については、職員の支援の下、かけたりしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	●季節感を取り入れた掲示物・花瓶の花・鉢植え等、季節を感じられるような工夫を行っている。光や音についても、利用者に合わせて調節している。トイレなど、利用者が分かりやすいような工夫を行い、本人の混乱の軽減を図っている。	季節の花が飾られ、利用者作成の季節のちぎり絵が貼ってある。温度や湿度は、毎日記録し、適宜対応している。風呂は、利用後窓を開け、壁や床の水滴をふき取り、乾燥させているので、閉め切った状態でも異臭は全くない。夜間、トイレに行く利用者のために、蛍光灯テープでトイレへの案内がなされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	●和室には、個別や数人用のソファが置いてあり、自由にテレビ鑑賞を行ったり、会話できるようになっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	●居室は、畳の部屋で落ち着ける雰囲気になっている。入所時、本人が使用していた家具や家族の写真等を持ってきてもらい、馴染んだ環境作りに努めている。写真や自分の製作物なども飾っている。	各居室には、以前読んでいた本と使っていた籐いす、仏壇、利用者のなじんているたんすなどが置かれ、個性がある。家族とのつながりの維持のために、家族の写真の提供を依頼し、大きく引き伸ばして壁に貼ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	●利用者の癖や身体状況の把握を行う事で、臨機応変にケアの変更を行う事で対応している。利用者の状況を考慮した家具の配置や排泄誘導の工夫などを行っている。			